

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(普通科)
使用教科書	教研出版『高等学校 現代の国語』				
副教材等	教研出版『現代の国語準拠ワーク』、尚文出版『大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000』 教研出版『力をつける 現代の国語』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等進路が多岐にわたっていることから、 ①基本的な言語事項の習得を重視し、実社会に必要な国語の知識や技能の習得を目指します。 ②多くの文章に触れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことを目指します。 また、他者との関わりの中で伝え合う力や自分の思いや考えを深める力を伸ばすことを目指します。 ③言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	社会と文化	6 「A 話すこと・聞くこと」	「コミュニケーション能力とは何か」 内田樹	<ul style="list-style-type: none"> 意思疎通の難しさを自身の体験で具体化する。 文字化した体験をプレゼンテーションする。 比喩と抽象的表現になれる。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
5	社会と文化	5 「B 書くこと」	「水の東西」 山崎正和	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを図式化する。 図式化した個々の作業を班活動でまとめ発表する。 大きなつながりで論全体を把握する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年(普通科)
使用教科書	数研出版『高等学校 言語文化』				
副教材等	数研出版『言語文化準備ワーク』尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文』、数研出版『力をつける 言語文化』 いっずな書店『四訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語 330』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での的確な理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深める。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

進学・就職等進路が多岐にわたっていることから、 ①基本的な言語事項の習得を重視し、我が国の言語文化に対する知識や技能の習得を目指します。 ②多くの作品に触れ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことを目指します。 また、他者との関わりの中で伝え合う力や自分の思いや考えを深める力を伸ばすことを目指します。 ③言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 グループ発表や個々の発言での表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	古文の世界を楽しむ	10 [B 読むこと]	「検非違使忠明」 古文チェックシート [1][2]	<ul style="list-style-type: none"> 古文と現代文の違いについて確認する。 歴史的仮名遣いについて確認する。 語について理解する。 用言の活用について理解する 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
5	現代にも生きる教え	6 [B 読むこと]	「ある人、弓射ることを習ふに」	<ul style="list-style-type: none"> 作者の意図の内容を理解する。 本文中の用言の活用について理解する 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

6	日本語の中に生きる漢文	5 「B 読むこと」	入門一 入門二、漢文チャット[1][2]	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の基本構造を理解し、訓読法に慣れる。 格言を音読し、返り点の用法を理解する。 再読文字の用法を理解する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	故事と成語	4 「B 読むこと」	狐借虎威	<ul style="list-style-type: none"> 音読し、再読文字に注意して書き下し文にする。 現代日本語における漢文由来の故事成語の由来を調べる。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
7	「ことば」を吟味する	7 「B 読むこと」	舟を編む	<ul style="list-style-type: none"> 読みやすい現代文学を題材とし、文学的文章の読解の基礎を学ぶ。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	仮名日記文学の原点	6 「B 読むこと」	門出、帰京、古文チャット[5]	<ul style="list-style-type: none"> 本文と関連する古典常識について調べる。 語句を確認する。助動詞を理解する。 内容に注意して現代語訳する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
9	受け継がれる古文	8 「A 書くこと」	羅生門	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を読み取る。 意見文を書く。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
10	和歌による心の交流	5 「B 読むこと」	芥川	<ul style="list-style-type: none"> 歌物語の特徴を理解する。 和歌の物語の中での重要な役割を理解する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	漢詩のことば	5 「B 読むこと」	漢詩	<ul style="list-style-type: none"> 詩の形式、きまりを理解する。 内容を理解し、日本文化と中国文化の類似点や相違点を考察する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
11	平安宮廷文学の世界	5 「B 読むこと」	ありがたきもの、雪のいと高う降りたるを	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現を確認し、理解する。 登場人物の行動について、多様な価値観から評価する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	論説の文章	6 「B 読むこと」	雑説	<ul style="list-style-type: none"> 句法に注意して音読、書き下し文にする。 現代語訳をして内容を理解する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
12	詩歌の系譜	5 「B 読むこと」	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの和歌集の特徴を理解する。 修辭法に注意して和歌を鑑賞する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
1		7 「B 読むこと」	短歌 俳句 詩	<ul style="list-style-type: none"> 古典詩から現代詩の流れを学ぶ。 自分で俳句を作り、クラスで句会を開催する。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	語感を磨く	2 「A 書くこと」	側転と三夏	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容を踏まえて、題名に込められた意味を話し合う。 鑑賞文を書く。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	探究の扉	2 「A 書くこと」	春や春	<ul style="list-style-type: none"> 俳句を作品内に取り入れることによる効果を考える。 鑑賞文を書く。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
2	受け継がれる漢文	8 「B 読むこと」	山月記	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動と心情の乖離を読み取る。 社会と人間との関わり合いについて考える。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
3	記録する文学	5 「B 読むこと」	沖縄の手記から	<ul style="list-style-type: none"> 近現代に書かれた戦争文学の背景や舞台を調べる。 「私」の心情を説明文に綴る。 	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

計96時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 12 時間	B 「読むこと」 84 時間 うち近代以降27 時間
-----------------	-------------------	-------------------------------

7 課題・提出物等

- 週一度の朝学習課題と週末の自宅学習課題に取り組み、週の始めに課題を提出し点検を受けます。
- 毎週一度、授業時間内で小テストを行い、基礎基本の授業内容の徹底と復習を図ります。
- 単元の内容により、グループ活動・レポートを設定します。
- 長期休業中の課題と休み明けの課題テストについては別途指示します。

8 担当者からの一言

- 古典の基本は音読です。リズムよく読めるようになるまで繰り返し声に出して本文を音読しましょう。
- 必ず予習をして授業に臨んで下さい。
- 現代語とは異なる意味を持つ単語や文法事項など、覚えるべきことは、副教材や小テストを活用して確実に覚えるようにしましょう。

6	新しい視点	6 「B 書くこと」	「わらしべ長者の経済学」 梶井厚志	・意味段落の具体例を班でまとめる。 ・物質的価値について意見文を推敲する。 ・比喩と主張を的確につかむ。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
		7 「C 読むこと」	「ポスト・ブライバシー」 阪本俊生	・インターネット社会の功罪を客観視する。 ・主張の展開をとらえる。 ・アイデンティティについて記述する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
9		7 「A 話すこと・聞くこと」	「政治的思考」 杉田敦	・本音と建前について班活動で討論する。 ・総論賛成、各論反対の現実を体験的に認識する。 ・難解な用語を通して論旨をつかみ主張に迫る。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
10	ことばのはたらき	4「B 書くこと」	「ものとことば」 山田孝夫	・本文の展開を話し合う。 ・本文の展開を図式化して発表する。 ・キーワードを土台に論旨を追いかける。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
		4「B 書くこと」	「知識のシステムをつくる」 今井むつみ	・具体的な事例を身近な話題から考察する。 ・話し合いの内容を班の間で補足し合いまとめる。 ・抽象的な枠組みを具体化して読み取る。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
11	人間と時間	6 「C 読むこと」	「時間と自由の関係について」 内山節	・思考ツールで主張を整理する。 ・思考ツールと自身の振り返りを照合して記述する。 ・対比を読み解き、通時的な世界観を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
12	認知の枠組み	5 「B 書くこと」	「浪費を妨げる社会」 國分功一郎	・辞書的な語彙と本文での用語例を整理する。 ・条件と結果を考え、自身の価値観を記述する。 ・経済的視点から述べられる社会論を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
1		7 「A 話すこと・聞くこと」	「他者を理解するということ」 鷲田清一	・論の展開を意味段落ごとに把握する。 ・意味段落にそれぞれある具体例について、自分の体験を発表する。 ・筆者の主張について、班活動で討論する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
2	環境と科学	5 「B 書くこと」	「科学コミュニケーション」 岸田一隆	・文系と理系に関する筆者の意見について整理する。 ・筆者の主張に対する意見文を書く。 ・対比を通して筆者の主張を読み取っていく。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
3	実用の文章	2 「C 読むこと」	「非言語コミュニケーション」 末田清子	・文章と図を読み取り、発表する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 20 時間	B 「書くこと」 29 時間	C 「読むこと」 15 時間
-----------------	------------------------	-------------------	-------------------

7 課題・提出物等

- ・週一度の朝学習課題と週末の自宅学習課題に取り組み、週の始めに課題を提出し点検を受けます。
- ・毎週一度、授業時間内で小テストを行い、基礎基本の授業内容の徹底と復習を図ります。
- ・単元の内容により、グループ活動・レポートを設定します。
- ・長期休業中の課題と休み明けの課題テストについては別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・相手の述べていることをよく聞き、読むことで正確に理解できるようになること、その上でそれらと自分の感じ方を比べたり、自己の考えを深めたりすること、そして、他人に共感してもらえる表現の力を身につけること。
地道に努力してその力を付けていきましょう。
- ・授業等で扱うものに限らず、さまざまなジャンルの文章を数多く読むようにしてください。

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	第一学習社『コネクト 地理総合』 帝国書院『新地理総合ノート』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>② 深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③ 他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④ 高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>② ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。</p> <p>③ 人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④ 学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 知識、技能の習得に向けて 基礎的・基本的な事項から正確な理解を図るとともに、日常的に地図を用いて分布など地理的事象の空間的広がり の把握を促す。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力等の育成に向けて 学習した事項を踏まえ、その背景やそれがもたらす影響などを考察し、意見の記述や議論する活動を行う。</p> <p>③ 学びに向かう力の涵養に向けて 現代の世界の実情を理解しグローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習等を通じ主体性や興味・関心を養う。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身に付けるとともに、追求した過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化も踏まえて公正に判断している。</p>	<p>現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。</p>

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	・地図でとらえる現代世界	6	・地図と地理情報システム	・世界各地における、太陽高度や昼夜の時間の季節変化と、標準時を確認し、緯度や経度との関係について考えます。	a	定期テスト
・時差を利用したグローバルな活動の例を把握します。				a	定期テスト	
・地球儀上で方位や距離を計測し、さまざまな世界地図での描かれ方と比較することで、世界地図の特徴を考えます。				b、c	ワークシート	
5		6	・結び付きを深める現代世界	・グローバル化の具体的な事象を通して、利点と課題を考察します。	c	ワークシート 発表
6	・国際理解と国際協力	30	・生活文化の多様性と国際理解	・写真や地図を用いて様々な地形とその利用について理解します。	a	定期テスト
7				・写真や気温図を用いて様々な気候と人々の生活について理解します。	a	定期テスト
8				・写真や具体例を用いて世界の文化とその多様性を理解します。	a	定期テスト
9				・写真や主題図を用いて世界の産業と人々の生活について理解します。	a	定期テスト
10				・地球的課題と国際協力	6	・地球的課題の解決へ向けてのさまざまな国際的取り組みとその課題を整理します。 ・持続可能な社会の実現へ向けての世界各地での取り組みの事例について考察します。
11						定期テスト
12	・持続可能な地域づくりと私たち	10	・自然環境と防災	・日本列島の地帯構造とプレートの境目の主題図を用いて、日本の地形の特性について考察します。	a	
1				・地形の特性と自然災害との関係性について、主題図や衛星画像などを用いて考察します。	b	ワークシート
2				・生活圏の調査と地域の展望	6	・防災・減災へ向けた各地域における取り組みについて、自助・共助・公助の観点から写真を用いて考察します。
3						

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期テストを実施します(1学期中間・期末、2学期中間・期末、学年末)。
- ・学期ごとに、ノートを提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

世界のグローバル化がさけられる中で、これからの世代を担っていくみなさんには国際社会の変化に対応するスキルが求められます。自然環境、産業、人口問題、都市問題、民族紛争など世界で起こっている様々なことに目を向け、世界的な視野を持った大人になってほしいと思います。世界とつながるこの科目でみなさんのもつ世界をひろげましょう。

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	浜島書店『新詳歴史総合』 啓隆社『新歴史総合研究ノート』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

<p>① 知識、技能の習得に向けて 基礎的・基本的な事項の正確な理解を重視し、日常的に年表や図表を用いて日本と世界の歴史的な推移の習得を目指す。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力などの育成に向けて 学習した内容をもとにして、その背景や今日に与えた影響などを考察し、自らの意見を記述あるいは議論する。</p> <p>③ 学びに向かう力の涵養に向けて 現代の世界の実情を理解し、グローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習などを通じて主体性・興味・関心を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の展開についての基本的な事柄をグローバル的視野に立って統合的に理解し、その知識を身に付けている。歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代の歴史の展開から課題を見出し、グローバル的視野に立って多面的・多角的に考察し、世界の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断しようとしている。	近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価基準・評価方法
4	第Ⅰ部 近代化と私たち	12	第1章 結びつく世界	・科目の導入として、資料と歴史叙述の関わりについて理解します。	a 定期テスト b・c ワークシート発表
5			第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・近代化に伴う生活変化を考察するなかで、興味・関心・疑問などの問いを表現する学習をします。	
6			第3章 明治維新と日本の立憲体制	・生徒が課題を設定し、同時代の人々がどのように対応したのかを資料を活用して考察します。	
7	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	30	第4章 帝国主義の展開とアジア	・現代の諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解します。	a 定期テスト
8			第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。	b・c ワークシート発表
9			第6章 経済危機と第二次世界大戦	・国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の惨禍、戦後国際秩序の再建について理解します。	a 定期テスト
10	第Ⅲ部 グローバル化と私たち	22	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	・生徒が課題を設定し、同時代の人々がどのように対応したのかを資料を活用して考察します。	a 定期テスト
11			第8章 冷戦と世界経済	・地域紛争、冷戦、第三世界の台頭、欧米や社会主義国家の政策転換など、国際政治の変容を理解します。	b・c ワークシート発表
12			第9章 グローバル化する世界	・世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることで、グローバル化の歴史を理解します。	a 定期テスト
1				・科目のまとめとして、生徒自らが設定した主題に基づいて資料を活用して探究し、現代的な諸課題を理解します。	b・c レポート発表
2					
3					

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 年間5回の定期テストがあります。 ・ 学期ごとに、授業ノートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「歴史総合」は、18世紀から現在までの近現代史を扱い、およそ300年にわたる「世界のなかの日本」について学ぶことを目的としています。グローバル化が叫ばれる今日、私たちは世界の人々と理解しあい、平和に共生・共存していかなければなりません。世界の人々を理解するために、世界と日本の関わりを学ぶことがどうしても必要なのです。「地理総合」と併せて、世界への視点を皆さんが大きく広げる材料としてください。

教科（科目）	数学 I	3 単位	1 学年
使用教科書	数研出版「高等学校 数学 I」		
副教材等	問題集「47° ペス 数学 I + A（数研出版）」 参考書「NEW ACTION LEGEND I + A（東京書籍）」		

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>(1) 基礎的・基本的な知識の習得及び基礎的・基本的な計算ができるようになること。</p> <p>(2) 既習の知識を活用してその理由を考察するとともに、それを適切に表現し、処理できるようになること。</p> <p>(3) 学習を改善しながら、発展的な問題に応用しようとする姿勢とその力を培うこと。</p>
--

4 評価の観点の趣旨・評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	式を適切に変形する力、図形について考察し表現する力、事象を表現してその特徴を関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。	数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を身につけている。
評価方法	・定期考査(A)・課題考査(B) ・小テスト(C) などから評価します。	・定期考査・課題考査 ・小テスト などから評価します。	・課題の提出状況(D) ・振り返りシートの記述(E) などから評価します。

5 学習計画

月	授業時数	学習内容	評価の観点	評価方法
4	8	第1章 数と式 1 多項式 2 多項式の計算 3 因数分解	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
5	10	1 学期中間考査 4.実数 5.無理数の計算 6 1次不等式	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
6	10	7 1次不等式の応用 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
7	8	1 学期期末考査 第3章 2次関数 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
8	3	3 最大・最小	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
9	10	4 2次関数の決定 5 2次方程式 6 グラフと2次方程式 7 グラフと2次不等式 2 学期中間考査	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
10	10	第4章 三角比 1 三角比 2 相互関係 3 拡張	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
11	10	4 正弦定理 5 余弦定理 6 応用 2 学期期末考査	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
12	8	7 三角形の面積 8 空間図形への応用	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
1	8	第5章 データの分析 1 データの整理 2 代表値 3 四分位数	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
2	8	4 分散と標準偏差 5 相関関係 学年末考査	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E
3	3	6 仮説検定 課題学習	abc	a、b:A、 B、 C c:D、 E

計 96 時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・各週の初めに小テストがあります。範囲は、前の週までの約1週間分の内容です。
- ・課題の提出の際には、振り返りシートを記入して、各自の学習で不足していた点を把握し、改善に役立ててください。

7 担当者からの言葉

「数学Ⅰ」は、高校数学の基礎となるとても重要な科目です。大学入試においても文系・理系を問わず、共通テストにおいて受験が課されています。「数学Ⅰ」をしっかりと学習することが、自己の進路実現につながるはずです。授業を大切にしましょう。自ら積極的に考えることが大切です。内容は中学校よりも範囲が広く高度になっています。それゆえ、毎日の家庭学習は不可欠です。授業の内容を復習し、理解を確認することが重要です。問題が解け、理解できたときの達成感が得られるよう、粘り強く頑張りましょう。

教科 (科目)	数学A	2単位	1学年
使用教科書	数研出版「高等学校 数学A」		
副教材等	問題集「47°plus 数学I+A (数研出版)」 参考書「NEW ACTION LEGEND I+A (東京書籍)」		

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の性質を見だし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>(1) 基礎的・基本的な知識の習得及び基礎的・基本的な計算ができるようになること。</p> <p>(2) 既習の知識を活用してその理由を考察するとともに、それを適切に表現し、処理できるようになること。</p> <p>(3) 学習を改善しながら、発展的な問題に応用しようとする姿勢とその力を培うこと。</p>
--

4 評価の観点の趣旨・評価規準・評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	式を適切に変形する力、図形について考察し表現する力、事象を表現してその特徴を関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。	数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を身につけている。
評価方法	・定期考査(A)・課題考査(B) ・小テスト(C) などから評価します。	・定期考査・課題考査 ・小テスト などから評価します。	・課題の提出状況(D) ・振り返りシートの記述(E) などから評価します。

5 学習計画

月	授業時数	学習内容	評価の観点	評価方法
4	5	第1章 場合の数と確率 1 集合と要素の個数 2 場合の数	abc	a, b: A, B, C c: D, E
5	7	1 学期中間考査 4 順列 5 組合せ 6 事象と確率	abc	a, b: A, B, C c: D, E
6	7	7 確率の基本性質 8 独立試行 9 反復試行 10 条件付き確率	abc	a, b: A, B, C c: D, E
7	6	1 学期期末考査 11 期待値 第2章 図形の性質 1 三角形の辺と比	abc	a, b: A, B, C c: D, E
8	1	2 外心・内心・重心	abc	a, b: A, B, C c: D, E
9	7	3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 2 学期中間考査	abc	a, b: A, B, C c: D, E
10	8	6 方べきの定理 7 2円の関係 8 作図	abc	a, b: A, B, C c: D, E
11	8	9 直線と平面 10 多面体 2 学期期末考査	abc	a, b: A, B, C c: D, E
12	5	第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数	abc	a, b: A, B, C c: D, E
1	4	4 整数の割り算	abc	a, b: A, B, C c: D, E
2	4	5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 学年末考査	abc	a, b: A, B, C c: D, E
3	2	7 記数法 課題学習	abc	a, b: A, B, C c: D, E

計 64 時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・各週の初めに小テストがあります。範囲は、前の週までの約1週間分の内容です。
- ・課題の提出の際には、振り返りシートを記入して、各自の学習で不足していた点を把握し、改善に役立ててください。

7 担当者からの言葉

「数学A」は、高校数学の基礎となるとても重要な科目です。大学入試においても文系・理系を問わず、共通テストにおいて受験が課されています。「数学A」をしっかりと学習することが、自己の進路実現につながるはずです。

授業を大切にしましょう。自ら積極的に考えることが大切です。内容は中学校よりも範囲が広く高度になっています。それゆえ、毎日の家庭学習は不可欠です。授業の内容を復習し、理解を確認することが重要です。問題が解け、理解できたときの達成感が得られるよう、粘り強く頑張りましょう。

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『物理基礎』				
副教材等	東京書籍『Let's Try Note物理基礎Vol.0数学編』、 『Let's Try Note物理基礎Vol.1力学編』、実教出版『ベストフィット物理基礎 新課程』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①教科書の例題や副教材の基本問題などを解きながら、教材の基本的な内容を理解し、基本的な技能を修得させる。</p> <p>②応用問題や記述形式の問題演習を通じて思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>③実験や作業、議論などにより自己分析力や協同する力を育てるとともに、身近な現象との関連を考察することを通して学びに向かう力を涵養する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 		<ul style="list-style-type: none"> 課題等の提出状況 「振り返り」の記述などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法	
4	1編 物体の運動とエネルギー	2	1章 運動の表し方	1節 運動の表し方	a、b	上記の評価方法	
		1		2節 等速直線運動	a、b		
		2		3節 合成速度と相対速度	a、c		
		5		3	4節 直線運動の加速度		a、b、
		3		5節 落体の運動	a、b、		1学期中間考査
6		3	2章 さまざまな力とそのはたらき	1節 力とつり合い	a、b、	上記の評価方法	
		6		2節 運動の法則	a、b、		
		4		3節 さまざまな運動とはたらく力	a、b、		1学期期末考査
7		2	3章 力学的エネルギー	1節 エネルギーと仕事	a、c	上記の評価方法	
		2		2節 運動エネルギーと位置エネルギー	a		
		2		3節 力学的エネルギーの保存	a、b、		
		1		4節 力学的エネルギーが保存されない場合	a		
9	2編 さまざまな物理現象とエネルギー	2	1章 熱	1節 温度と熱	a	2学期中間考査	
		2		2節 熱の移動と保存	a、b、		
		2		3節 熱と仕事	a、c		
		1		4節 熱効率と不可逆変化	a		
10		3	2章 波	1節 波を表す	a、b、	上記の評価方法	
		3		2節 波の重ね合わせ	a、b		
		1		3節 音の性質	a		
11		2		4節 弦の固有振動	a、b、	上記の評価方法	
		2		5節 気柱の固有振動	a、b、		
12		1	3章 電気と磁気	1節 電流と電圧	a	2学期期末考査	
		3		2節 電気抵抗	a、b、		
		1		3節 抵抗の接続	a		
1		1		4節 電気とエネルギー	a	上記の評価方法	
		2		5節 直流と交流	a、b		
2		1	4章 エネルギーとその利用	6節 電磁波	a	上記の評価方法	
		1		1節 エネルギーの変換と保存	a		
		1		2節 原子核のエネルギー①	a、b		
3		1		3節 原子核のエネルギー②	a	3学期期末考査	
		2		4節 エネルギーの利用と課題	a、c		
		1		物理学が拓く世界	c		

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

授業中に配布するワークシート、 実験レポート、 長期休業中の課題 等

8 担当者からの一言

<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、その授業内で理解するように努めること。 ・授業で学んだことは、その日のうちに復習すること。 ・問題集で多くの問題を解き、知識の定着と技能の修得に努めること。 ・疑問や理解できなかった事柄はそのままにせず、積極的に質問すること。

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学基礎』				
副教材等	第一学習社『新課程二訂版 スクエア最新図説化学』、浜島書店『新編アクセス化学基礎』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。 ①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。

2 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 教科書の例題や副教材の基本問題などを解きながら、教材の基本的な内容を理解し、基本的な技能を修得させる。</p> <p>② 応用問題や記述形式の問題演習を通じて思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>③ 実験や作業、議論などにより自己分析力や協働する力を育てるとともに、身近な現象との関連を考察することを通して学びに向かう力を涵養する。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 課題等の提出状況 振り返りシートの記述などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 ～ 5	第Ⅰ章 物質の構成	9	第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表	①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	a、b、c a、b a、b a、b、c a、b a、b	上記評価方法 1学期中間考査
5 ～ 7		12	第3節 物質と化学結合	①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	a、b a、b a、b、c a、b a、b、c	上記評価方法 1学期期末考査
7 ～ 10	第Ⅱ章 物質の変化	13	第1節 物質と化学反応式	①原子量・分子量と式量 ②物質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	a、b a、b a、b、c a、b a、b、c a、b	夏季休業中の課題テスト 上記評価方法 2学期中間考査
10 ～ 11		12	第2節 酸と塩基の反応	①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	a、b a、b a、b a、b、c	上記評価方法 2学期期末考査
12 ～ 3		18	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 ⑦電気分解	a、b a、b a、b、c a、b、c a、b、c a、b a、b、c	上記評価方法 学年末考査

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・休業中の課題
- ・実験レポート など

8 担当者からの一言

- ・考えることは重要であるが、暗記することも重要である。(元素記号や化学式は暗記するまで何度も書く。)
- ・その日の授業はその日のうちに理解する。(理解できたかどうか、問題を解いてみることで確認する。)
- ・理解できないところは、すぐに授業担当に質問する。
- ・『知的な好奇心』を大切にし、『論理的思考力』や『創造力』をもって、身のまわりで起きていることを理解する

教科(科目)	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版『高校 生物基礎』				
副教材等	数研出版『改訂版 リードlight 生物基礎』				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組めます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次ぎのとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 教科書内容等の基本知識の確実に習得させること。</p> <p>② 副教材を用いて大学入試問題等の応用問題に触れ、進学に必要な学力を身につけさせること。</p> <p>③ 授業内容をふまえて身近な生物に関する事象をあげ、身の回りの自然に対する関心と生物学的に探究する能力を育てること。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生命現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生命現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	1章：生物の特徴	1	1節：生物の多様性と共通性	① 生物の多様性・共通性	a、 b、 c	・上記の評価方法 ・一学期中間考査
		2		② 生物の共通性と進化		
		2		③ 細胞		
5		2	2節：生物とエネルギー	① 代謝とエネルギー		・上記の評価方法 ・一学期期末考査
		2		② 酵素と代謝		
	1	③ 光合成				
	1	④ 呼吸				
	2	⑤ エネルギーの流れ				
6	2章：遺伝子とその働き	1	1節：遺伝情報とDNA	① 遺伝子の本体	a、 b、 c	・上記の評価方法 ・二学期中間考査
		2		② DNAの複製と分配		
7		2	2節：遺伝情報とタンパク質の合成	① 遺伝子とタンパク質		
		2		② タンパク質の合成		
		2		③ 遺伝子の発現		
9	1	④ ゲノムと遺伝子				
10	3章：ヒトのからだの調節	2	1節：体内環境	① 体内環境と恒常性	a、 b、 c	・上記の評価方法 ・二学期期末考査
		2		② 体液とその働き		
		2		③ 体液の調節		
11		2	2節：体内環境の維持のしくみ	① 情報の伝達		
		2		② 自律神経系による情報伝達		
	2	③ 内分泌系による調節				
	2	④ 内分泌系と自律神経による調節				
12	2	3節：免疫	① 生体防御と免疫			
	2		② 自然免疫のしくみ			
	2		③ 獲得免疫のしくみ			
	2		④ 免疫と疾患			
1	4章：生物の多様性と生態系	2	1節：生態系とその成り立ち	① 生態系	a、 b、 c	・上記の評価方法 ・三学期期末考査
		2		② 植生とその変化		
		2		③ 遷移のしくみ		
2		2	2節：植生とバイオーム	① 世界のバイオームとその分布		
		2		② 日本のバイオーム		
		2	3節：生態系と生物の多様性	① 生物の多様性		
		2		② 生物同士のつながり		
3		2	4節：生態系のバランスと保全	① 生態系のバランス		
	2	② 人間生活による環境への影響				
	1	③ 生態系の保存の重要性				

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

①問題集、②実験レポート、③授業時の課題、④長期休暇中などの課題、など

8 担当者からの一言

自然現象を深く理解するためには、「ただ暗記するだけ」でも「何も暗記しない」でも充分ではありません。「思考・判断するために基本となる知識・法則を覚える事」と「知り得た知識・法則から考える事」の両方が必要なのです。さまざまな自然現象に対して、科学的に思考・判断することができる力を身に付けられるように努力しましょう。また、副教材等を用いて授業内容をさらに深く理解するように心がけてください。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店出版『ステップアップ高校スポーツ2025』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①知識、技能の習得に向けて</p> <p>各領域の「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。</p>
<p>②思考力、判断力、表現力の育成に向けて</p> <p>体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決に重点を置く。</p>
<p>③学びに向かう力の涵養に向けて</p> <p>運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・定期考査</p> <p>・技能テストや授業中の観察</p> <p>・学習カードの内容の確認</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>・授業中の発言、学習カードの内容</p> <p>・レポートや振り返りシートなどの記述の分析</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>・授業中の取り組む姿勢の観察</p> <p>・ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析</p> <p>・自己評価や相互評価などの分析</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	体づくり運動	10	体ほぐしの運動	柔軟性を高める運動、調整力を高める運動 ペアストレッチ など	c	観察
				筋力を高める運動、持久力を高める運動 十高体操 など	b	学習カードの分析
5	器械運動 陸上競技	11	マット運動 跳び箱運動 (鉄棒) 短距離走	倒立、倒立前転、側方倒立回転跳び など	a b	技能テスト 学習カード
				50m走、100m走、リレーなど	a b c	タイム計測 学習カード
6		4	新体カテスト	体カテスト 8種目	a	カードの記入
7	水泳	10	クロール 平泳ぎ	浮きやすい姿勢での泳ぎ ストロークに合わせた呼吸 効果的なローリング動作 足の裏で力強く蹴るキック	a b c	タイム計測 学習カード 観察
8	体育理論	6	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ	・スポーツがどのように始まったのか ・なぜスポーツが世界中に広まったのか ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴 ・多様なかわり方によるスポーツ文化の変容	c	観察
					b c	学習カード
9	陸上競技	11	短距離走	50m走、100m走、リレーなど	a b c	タイム計測 学習カード
9	器械運動	6	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	・オリピズムとオリンピックの価値 ・パラリンピックの価値と意義について ・スポーツの経済活動での役割 ・スポーツにかかわる業種について ・スポーツの高潔さを脅かす要因について ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのか ・スポーツにおける環境問題について ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか	a	確認テスト
10	陸上競技	10	長距離走	自己に適したペースのランニング リズムカルな腕振り、走りのリズムに合った呼吸法	a b c	タイム計測 学習カード
11	球技選択 ネット型 ゴール型	22	バレーボール バスケットボール	対人パス（アンダー、オーバー）、簡易ゲーム	a c	技能テスト
				サブ・各ストローク・シングル・ダブル簡易ゲーム	b a c	学習カード 技能テスト 学習カード
12	ネット型 ネット型	卓球	サブ・各ストローク・シングル・ダブル簡易ゲーム	b	学習カード	
1 2	スキー	12	アルペンスキー	ブルークボーゲン、シュテムターン パラレルターン（技能別授業）	a c b	技能テスト 学習カード

計96時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・教材によって、ワークシートやレポート提出を求められることがあります。
- ・当番になった生徒は、体育日誌の記入提出をしてもらいます。

8 担当者からの一言

「生きる力」の一つである「自分で課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決する能力」が育まれることを期待します。また、毎時間のはじめに、伝統の十高体操、補強運動を行います。継続して3年間行うことから何かを学んで欲しいです。秋には、やはり伝統の持久走大会が行われます。自身の持てる力の全力をぶつけて下さい。冬には、雪国ならではのアルペンスキーをスキー場へ移動して行います。自然の中で、安全に技能の向上を目指しましょう。（担当：川島茜）

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組めます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①知識、技能の習得に向けて</p> <p>ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用および社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力・判断力などの資質や能力を育成する。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の育成に向けて</p> <p>健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。そして、ホームルーム活動や学校行事などの特別活動および総合的な学習の時間などにおいて「保健」で身に付けた知識および資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにする。</p> <p>③学びに向かう力の涵養に向けて</p> <p>健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成する。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・定期考査</p> <p>・授業中の質疑応答の観察</p> <p>・課題の実施内容、ノートやレポートの内容の確認</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>・定期考査</p> <p>・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察</p> <p>・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察</p> <p>・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析</p> <p>などから、総合的に評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法						
4	1単元 現代社会と健康	3	健康の考え方と成り立ち	・さまざまな健康の考え方について ・健康を成り立たせている要因について	c	発表の様子						
5			私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について ・わが国の現在の健康問題について								
6			8	生活習慣病の予防と回復			・生活習慣病の種類と要因について ・生活習慣病の一次予防, 二次予防について	b	ワークシート			
6		がんの原因と予防		・がんの種類や原因について ・がんの一次予防と二次予防について			c	発表の様子				
7		がんの治療と回復		・がんのおもな治療法や緩和ケアについて ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について								
7		運動と健康		・健康と運動の関係について ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて								
7				食事と健康			・食事と健康の関係について ・健康的な食事のとり方について	a	1学期末考査 ノート			
7				休養・睡眠と健康			・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方 ・健康と睡眠の関係、健康によい睡眠のとり方					
8		4	喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について ・喫煙対策について			b	ワークシート				
9			飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響 ・飲酒による健康問題に対する対策について								
9			薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響 ・薬物乱用防止のための対策について								
10		4	精神疾患の特徴	・精神疾患の発病の要因とおもな症状について ・現代社会における精神保健の課題					b	ワークシート		
10	精神疾患の予防		・精神疾患を予防する方法について ・精神疾患の早期発見に必要なことについて									
10	精神疾患からの回復		・精神疾患の治療について ・精神疾患の適切な治療や回復									
11	4	現代の感染症	・感染症とは何かについて ・新興感染症と再興感染症が流行する要因	c	発表の様子							
11		感染症の予防	・感染症の予防対策について ・感染症への個人と社会の対策について									
11		性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点 ・性感染症・エイズの予防とその対策について									
12	2	健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択			b					2学期末考査 ノート	
12		健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴									
1	2単元 安全な社会生活	3	事故の現状と発生要因									・事故の実態と被害の実態について ・事故の発生要因について
2			安全な社会の形成				・安全のために必要な個人の行動について ・安全を確保するために必要な環境整備について					
2			交通における安全				・交通事故防止の取り組みについて ・交通事故における責任について					
2	4	応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイント				c	実技の様子				
3		日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順 ・日常的なけがや熱中症の応急手当									
3		心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について ・実際に、心肺蘇生法をおこなう						a b	3学期末考査 ノート		

7 課題・提出物等

計32時間 (55分授業)

- ・教材によって、ワークシートやレポート提出を求められることがあります。
- ・学期ごとにノート提出をし、日頃の学習への取り組みを確認します。

8 担当者からの一言

人の一生のなかで高校生の時期は、保健体育の観点からみても大変重要な意味を持っています。体の大きさは成人に近づいていきますが、体力や心の発達という点からは、成人になるまでさらなる充実が期待されるからです。そのような時期にあって、自らの健康はもちろんのこと、これからの社会を担う一員として、健康やスポーツを社会のなかで考えていける力を身に付けることが求められています。健康は生涯を通じて重要な土台となるものです。それが将来にわたって私たちの明るく健康な生活を生み出し、それを維持していく上で欠かせないということを自覚し、学習に取り組みしましょう。(担当：川島茜)

教科(科目)	音楽1	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①曲を構成する様々な要素から曲想を把握し、曲に相應しい奏法や表現の工夫を図る。</p> <p>②曲を構成する様々な要素から曲想を把握し、曲に相應しい奏法や表現の工夫を図る思考力、判断力、表現力の育成に向けて 知識、技術の 曲種に応じた発声や、楽器奏法の習熟、基礎的な音楽の諸能力の伸長を図る。</p> <p>③ 学びに向かう力の滋養について合唱・合奏等のアンサンブル活動による、社会適応力・自己分析力・主体的実行力などの育成を図る</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと甘受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・演奏テストの内容</p> <p>・鑑賞シートの内容</p> <p>・音楽史・鑑賞レポートの内容</p> <p>・演奏シートの内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・演奏テストの内容</p> <p>・鑑賞シートの内容</p> <p>・音楽史・鑑賞レポートの内容</p> <p>・演奏シートの内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・演奏テストの内容</p> <p>・音楽史学習シートの内容</p> <p>・授業への取り組み</p> <p>などから、評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	歌の楽しみ	10 「A 表現」 「共通事項」	校歌 0 Sole mio 野ばら	<p>・発声の基礎を学ぶ</p> <p>・曲種に応じた歌唱法・表現方法を学ぶ</p>	a, b, c	<p>観察・聴取</p> <p>学習プリント</p> <p>演奏発表</p>

5	楽器奏法の基礎	8 A「表現」 「共通事項」	練習プリント 木星	・ギターの基本奏法を学ぶ	b, c	観察・聴取 演奏発表
6	音楽史 1	4 B「鑑賞」 「共通事項」	動物の謝肉祭	・音楽の要素とイメージをつなげよう	a, b	音楽史学習シート
7	楽器奏法の基礎	8 A「表現」 「共通事項」	練習プリント 天国と地獄	・リコーダーの基本奏法を学ぶ	b, c	観察・聴取 演奏発表
9	日本のポップスをハモろう	14 A「表現」 「共通事項」	翼をください 島唄	・2部合唱をする	a, c	観察・聴取 ワークシート 演奏発表
10	アンサンブルの楽しみ		見上げてごらん 夜の星を	・リコーダーでアンサンブルをする		
11	音楽史 2	6 B「鑑賞」 「共通事項」	グレゴリオ聖歌 ルネサス、バロック、モーツァルト、ショパン、リスト	・古代～古典派の音楽を学ぶ ・ロマン派～近代の音楽を学ぶ	a, b	音楽史学習シート
12	弾き語りにも挑戦 ミュージックハルに親しむ	14 A「表現」 「共通事項」	日曜日よりの 使者 星に願いを	・ギターやキーボードを用い、弾き語りをする ・ミュージックハルでアンサンブルをする	a, b, c	観察・聴取 ワークシート 演奏発表
1	沖縄の音楽	8 A「表現」	海の声	・三線の奏法を学ぶ	a, b, c	観察・聴取
2		B「鑑賞」	涙そうそう	・三線で弾き語りをする		演奏発表
3		「共通事項」		・沖縄の音楽文化や芸能について理解を深める		

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「表現」	B「鑑賞」	C「共通事項」
	38 時間	14 時間	12 時間

7 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・授業での演奏や実技テスト ・ワークシート ・鑑賞シートや音楽史学習シート

8 担当者からの一言

<p>高等学校の授業では、今までより主体的に学ぶという姿勢を持ってください。特に基本的な音楽表現の基礎となる「歌うこと」に対し、積極的に取り組むことが大切です。学校教育での音楽の授業が高校で最後になる生徒もいると思います。幅広い音楽の世界を理解するとともに、音楽の基礎的能力を習得し、生涯を通じて音楽を愛好する人になって欲しいと思います。</p>

教科(科目)	美術 I	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術 1』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組めます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①対象を観察して表現する。(対象について見方感じ方を率直に表現できる)</p> <p>②材料や用具の特性を生かして、適切な表現、独創的な表現を工夫する。</p> <p>③作品における表現技法を伸ばす。</p> <p>④美術の基本的性格(形式・人生における意義、価値)を理解し、美術の創造活動に取り組む態度を育む。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</p>	<p>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・作品内容</p> <p>・レポート内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・作品内容</p> <p>・レポート内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・作品内容</p> <p>・レポートの内容</p> <p>・授業への意欲</p> <p>などから、評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	領域と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	絵画/彫刻/デザイン 絵画/彫刻	(2)「A表現/鑑賞」 4「A表現」	教科書 デッサン コラージュ	・年間学習計画と高校芸術の心構え ・モチベーション ・素描 ・感覚練習	c a b	授業への意欲 作品内容
5	絵画	(7) 「A表現」	アクリル	・新材料の扱い方 ・芸術作品の鑑賞、構図、配色、描写方法	a b	作品内容
6	絵画	(7) 「共通事項」	アクリル	・名画(風景)を描く ・構図、遠近法など絵画秩序 ・材料の扱い方	b c	作品内容
7	絵画	(6) 「共通事項」	アクリル	・名画(静物)を描く、構図、空間の意識、全体の色調	b c	作品内容
8 9	デザイン	(6) 「B鑑賞」	アクリル DVDの鑑賞	・ポスターの種類、歴史を調べる ・新しい発見 ・表現方法 ・構成	a b	レポート内容
10	デザイン	(6) 「共通事項」	アクリル	・パネル張りの技術の習得 ・発想(目的を伝えるイラスト) ・構図	b c	作品内容
11	デザイン	(6) 「A表現」	アクリル	・表現方法 ・発想 ・抽象表現方法 ・構成	a b	作品内容
12	彫刻	(6) 「A表現」	粘土	・はにわの歴史 ・発想 ・構図 ・立体の意識	a b	作品内容
1	彫刻	(6) 「共通事項」	粘土	・エスキース ・主題と展開 ・技法の工夫	b c	作品内容
2	絵画	(6) 「A表現」	きり絵	・白黒の世界(表現の可能性) ・立体の把握と色彩効果の表現、技能	a b	作品内容
3	鑑賞	(2) 「B鑑賞」	DVDの鑑賞	・図書館で画集の鑑賞 ・DVDの鑑賞 ・レポート作成	b c	レポート内容

計64時間(55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「表現」 31時間	B「鑑賞」 8時間	「共通事項」 25時間
-----------------	---------------	--------------	----------------

7 課題・提出物等

単元ごとにエスキース、作品、またはレポート(作品のねらい、出来栄え、反省点)を提出。学期ごとにスケッチブックを提出。

8 担当者からの一言

様々な作品と出会い、鑑賞し創造しながら美術に触れることを楽しみ、自分がどんなものを作りたいか常に思考し、完成まで努力し、そのことを通じ、美術の意義や価値を理解してほしいと思います。

教科(科目)	書道 I	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	光村図書出版『書 I』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。</p> <p>③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。</p> <p>④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、次のような教育活動を行う。</p> <p>①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。</p> <p>②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組めます。</p> <p>③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。</p> <p>④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。</p>

2 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を学び、書の表現の方法や形式、多様性などを理解させる。</p> <p>②意図に基づいて構想し表現できるように育む。</p> <p>③書の伝統と文化に親しみ、書のよさや美しさを感じ、書的美を味わい捉えたりすることができるように育む。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。</p> <p>・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫している。</p> <p>・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

5 評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・制作した作品の内容</p> <p>・制作カードの内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・制作した作品の内容</p> <p>・制作カードの内容</p> <p>・鑑賞カードの内容</p> <p>などから、評価します。</p>	<p>・制作した作品の内容</p> <p>・制作カードの内容</p> <p>・鑑賞カードの内容</p> <p>・授業の取り組み</p> <p>などから、評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	書写から書道へ	(1) 「B鑑賞」		<ul style="list-style-type: none"> 年間学習計画 高校芸術の心構え 	a	授業の取り組み
5	漢字の書(楷書) 「唐の四大家」の書	(8) 「共通事項」	「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「顔氏家廟碑」 「雁塔聖教序」	<ul style="list-style-type: none"> 四大家の書風の違い 筆者について 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 	a b	作品内容 制作カードの内容
6	表現を広げよう 「龍門石窟」の書	(2) 「共通事項」	「牛欄造像記」	<ul style="list-style-type: none"> 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 唐代の楷書との違い 	a b	作品内容 制作カードの内容
7	楷書の創作	(10) 「A表現」	自選自句二文字作品制作(半切1/2)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 相互批評する。 	b c	作品内容 制作カード・鑑賞レポートの内容 授業の取り組み
8						
9	楷書の創作	(6) 「A表現」	漢字五文字作品制作(半紙)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 	b c	作品内容 授業の取り組み
10	篆刻	(8) 「共通事項」	姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> 印の使い方や種類を知り、篆刻に必要な用具と使い方を理解する。 文字の配置や刻法に気を付けながら篆書の姓名印を刻す。 	b c	作品内容 制作カードの内容 授業の取り組み
11	漢字の書(行書)	(4) 「共通事項」	「蘭亭序」 「風信帖」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者について 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 	a b	作品内容 制作カードの内容 授業の取り組み
	漢字の書(行書)	(1) 「B鑑賞」	「三筆・三跡の書」	<ul style="list-style-type: none"> 平安時代の書作品について鑑賞する。 	a	レポートの内容
	行書の創作	(4) 「A表現」	自選自句一文字作品制作(半切1/3)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 	b c	作品内容 制作カードの内容 授業の取り組み

12	仮名の書	(8) 「共通事項」	「蓬莱切」 「高野切第三種」	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と種類について学ぶ。 ・仮名の基本的な知識を理解し、筆遣いを習得する。 	a b	作品内容 授業の取り組み
1	仮名の創作(散らし書き)	(4) 「A表現」	自選自句(半紙)	<ul style="list-style-type: none"> ・行書きと散らし書きの違いを理解する。 ・古典を鑑賞し、散らし書きの構成方法を知り、その技法を理解する。 ・仮名の基礎をもとに、紙面構成を考えながら制作する。 	b c	作品内容 制作カードの内容 授業の取り組み
2 3	漢字仮名交じりの書	(8) 「A表現」	自選自句(半切1/3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の書」・「仮名の書」の学習を通して得た知識・技能を十分生かし身近な語句や詩文を使って自己表現する。 ・作品について発表する。 	b c	作品内容 制作カード・鑑賞カードの内容 授業の取り組み 発表の様子

計 64 時間 (55 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「表現」 32 時間	B 「鑑賞」 2 時間	C 「共通事項」 30 時間
-----------------	-----------------	----------------	-------------------

7 課題・提出物等

制作した作品、制作カード、鑑賞カード

8 担当者からの一言

小・中学校での国語の書写とは一転、芸術科「書道」ではさまざまな表現力を身に付け、鑑賞の能力を伸ばすための学習を計画しています。まずは書の古典を学び、先人の思いを追体験すること(臨書)で、次段階の創作に発展させていきます。より多くの書表現に触れながら、書が自己表現の一つであることを知り、より深く、豊かな感性を養っていくことが大きな目標です。

教科(科目)	英語(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	4単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	増進堂『FLEX ENGLISH COMMUNICATION I』				
副教材等	増進堂『FLEX ENGLISH COMMUNICATION I 予習&授業ノート』、文英堂『Alice's Adventures in Wonderland』、文英堂『Kwaidan』(後日授業で配付)、美誠社『WORDBOX Essential』、大修館書店『ジーニアス英和辞典』、いづな書店『Base Builder』(LEでも使用)				

1 学習目標

<p>英語による言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるようにする。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができるようになる。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>(1) 自分の英語学習を計画立て、実行し、振り返りながら自己の学習を調整する機会を設ける。</p> <p>(2) 表現活動を授業の中心に据えることで、コミュニケーションツールとして英語を捉えられるようにし、各自の目標や興味に応じた学習目標を設定できるようにする。</p> <p>(3) 理解や表現において必要となる基礎・基本を初期段階から繰り返し学習する。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価方法

知識・技能 A (40%程度)	思考・判断・表現 B (40%程度)	主体的に学習に取り組む態度 C (20%程度)
<ul style="list-style-type: none"> 知識を問うペーパーテスト 考査でのリスニング問題(論表考査にて) パフォーマンステスト などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 表現力を問うペーパーテスト 考査でのリスニング問題(論表考査にて) パフォーマンステスト 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> My English Project の分析 小テスト 授業外学習への取り組み 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	主な学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	Starting Lesson	6	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス スタディーサプリ・Abceed 使用説明 My Project Sheet ①記入(計画) 基本的な文構造(SとV)と品詞の確認 英和辞典の使い方 	C	提出→分析
5			<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を自分の言葉で話す活動 助動詞、to不定詞の確認 	A	観察、中間考査
	Lesson 1	14	<ul style="list-style-type: none"> 日本語要約活動 本文に関する内容でライティング、スピーキング 	A	観察、中間考査
				B	観察、中間考査

			<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題でスピーキング（やり取り） ・語彙力測定テスト① 	B A	観察、5月パフォーテ 小テスト
	中間考査	1	【考査内容（予定）】品詞・文構造・表現確認問題、辞書で意味を確認する問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
	パフォーマンステスト	2	【試験内容（予定）】ペアで身近な内容について即興で話し合う。	B	
6	Lesson 2	20	<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞、間接疑問文の確認 ・基本的な文構造（SとV）と品詞の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・身近な話題でスピーキング（やり取り） ・語彙力測定テスト② 	A A A B B B A	観察、期末考査 観察、期末考査 観察、期末考査 小テスト 観察、期末考査 観察 小テスト
	期末考査	1	【考査内容（予定）】品詞・文構造・表現確認問題、辞書で意味を確認する問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
7	Lesson 4	22	<ul style="list-style-type: none"> ・My Project Sheet ①記入（振り返り） ・My Project Sheet ②記入（計画） ・基本的な文構造（SとV）と品詞の確認 ・後置修飾、現在完了形の確認 ・関係代名詞、過去完了形の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・身近な話題でスピーキング（やり取り） ・語彙力測定テスト③ 	C C C A A B B B A	提出→分析 提出→分析 小テスト 観察、中間考査 観察、中間考査 観察、中間考査 観察 観察、中間考査 観察 小テスト
8					
9					
	パフォーマンステスト	3	【試験内容（予定）】本文の登場人物にインタビューするという設定でのペアでのやり取り。	B	
	中間考査	1	【考査内容（予定）】品詞・文構造・表現確認問題、辞書で意味を確認する問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
10	Lesson 7	22	<ul style="list-style-type: none"> ・5文型の確認 ・関係代名詞の非制限用法、関係副詞の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・身近な話題でスピーキング（やり取り） ・語彙力測定テスト④ 	A A B B B B A	観察、期末考査 観察、期末考査 観察、期末考査 観察 観察、期末考査 観察 小テスト
11					
	期末考査	1	【考査内容（予定）】品詞・文構造・表現確認問題、辞書で意味を確認する問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	

12	国際交流(予定)	2	・交流準備 ・留学生と交流する		
	Lesson 9	21	・My Project Sheet ②記入 (振り返り)	C	提出→分析
			・My Project Sheet ③記入 (計画)	C	提出→分析
			・5文型の確認	A	観察、学年末考査
			・知覚動詞、分詞構文の確認	A	観察、学年末考査
1		・日本語要約活動	B	観察、学年末考査	
		・本文の内容を自分の言葉で話す活動	B	観察	
		・本文に関する内容でライティング、スピーキング	B	観察、学年末考査	
2	パフォーマンステスト	2	【試験内容 (予定)】 ペアで身近な内容について即興で話し合う。	B	2月パフォーテ
2	Lesson 8	9	・My Project Sheet ③記入 (振り返り) ・仮定法過去、仮定法過去完了の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・社会的な話題でスピーキング (やり取り)		提出

計 128 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ ノートを準備する。見えそうな表現をメモしたり、英語を書く練習をしたりします。
- ・ スタディーサプリ：自分の選んだレベルで1週間に3レッスン以上 (Cの評価)
- ・ Abceed への取り組み (Cの評価)
- ・ My English Project や振り返りシート：考査返却時等に記入し提出 (Cの評価)
- ・ 語彙力測定テスト：考査後毎に語彙力の確認のために実施 (Cの評価)
- ・ 週末課題 (サイドリーダー) の提出 (Cの評価)

7 担当者からの一言

「社会的な内容の英語の文章を読んだ後、それに基づいて英語で意見交換し合う」そんなことができる自分になればワクワクしませんか。そんなワクワクを持って英語を学んでほしいと思っています。十日町高校英語科は将来英語を使わなければならない環境におかれても対応できる英語力、コミュニケーション能力を身に付けてほしいと考えています。そのために高校3年間では基礎・基本を大切にしながら、各自の能力、目標、興味に応じて高度な英語に挑戦していきましょう。また、自分の学習を調整し、自分にとって最適な学習を継続して行える学習者になれるよう支援していきたいと考えています。素敵な自分を目指し、ワクワクしながら共に学びましょう。

教科(科目)	英語(論理・表現 I)	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	いっぴな書店『be English Logic and Expression I Clear』				
副教材等	いっぴな書店『be Clear My English Portfolio』、いっぴな書店『Base Builder』(ECでも使用)、 いっぴな書店『総合英語 be 4 th Edition』、 いっぴな書店『総合英語 be 4 th Edition 暗唱例文集+確認問題集』(自主学習用)				

1 学習目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2 指導の重点

希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 自分の英語学習を計画立て、実行し、振り返りながら自己の学習を調整する機会を設ける。
- ② 表現活動を授業の中心に据えることで、コミュニケーションツールとして英語を捉えられるようにし、各自の目標や興味に応じた学習目標を設定できるようにする。
- ③ 表現において必要となる基礎・基本を初期段階から繰り返し学習する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 A (40%程度)	思考・判断・表現 B (40%程度)	主体的に学習に取り組む態度 C (20%程度)
評価の観点	・ 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにしようとしている。	・ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりしようとしている。	・ 主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 知識を問うペーパーテスト ・ パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 表現力を問うペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ My English Project (EC で記入したもの) ・ 小テスト ・ 授業外学習への取り組み ・ 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	主な学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	Lesson 1	7	・ 授業ガイダンス ・ 否定文・疑問文の作り方の確認 ・ 自分のことを話すための表現を確認	A B	観察、中間考査 観察、中間考査
5			・ 質問し合いながら、お互いのことを確認するスピーキング・ライティング ・ 30秒自己紹介スピーチ作成、発表練習	B B	観察、中間考査 観察、5月パフォテ
	中間考査	1	【考査内容(予定)】初見リスニング問題(EC評価)、授業で扱った表現・文法確認問題、授業で扱っ		

			た内容での作文問題、初見の身近な内容で自由英作文問題		
5	パフォーマンステスト	1	【試験内容 (予定)】 30秒の自己紹介スピーチを行う。		
6	Lesson 2, 3	9	・基本的な動詞の時制の確認	A	観察、期末考査
			・過去の出来事の表現方法を確認	A	観察、期末考査
			・ある日の出来事についてスピーキング・ライティング	B	小テ、期末考査
			・未来の出来事の表現方法を確認	A	観察、期末考査
			・夏休みの予定についてスピーキング・ライティング	B	小テ、期末考査
			・身近な内容でスピーキング	B	観察
7	期末考査	1	【考査内容 (予定)】 初見リスニング問題 (EC 評価)、授業で扱った表現・文法確認問題、授業で扱った内容での作文問題、初見の身近な内容で自由英作文問題		
8	Lesson 4	4	・名詞の確認	A	観察、中間考査
			・基本的な現在完了形の復習	A	観察、中間考査
			・現在完了形の応用的な表現を確認し、表現で試してみる。	A, B	観察、中間考査
			・身近な内容でスピーキング	B	観察
			・プレゼン準備	B	パフォテ
9	パフォーマンステスト	3	【試験内容 (予定)】 スライド等の視覚補助を使った、夏休みについての個人プレゼン		
10	Lesson 5	3	・名詞の確認	A	観察、中間考査
			・基本的な現在完了形の復習	A	観察、中間考査
			・達成した・達成できなかった経験の表現方法を確認	A	観察、中間考査
			・達成した・達成できなかった経験についてスピーキング・ライティング	B	小テ、中間考査
			・ミニミニディベート	B	観察
10	中間考査	1	【考査内容 (予定)】 初見リスニング問題 (EC 評価)、授業で扱った表現・文法確認問題、授業で扱った内容での作文問題、初見の内容で自由英作文問題		
10	Lesson 6-8	5	・助動詞の確認	A	観察、期末考査
			・助動詞を表現で試してみる	B	観察、期末考査
			・ミニミニディベート	B	1月パフォテ
11	Lesson 9,10	8	・助動詞の復習	A	観察、期末考査
			・受動態を含む表現の確認	A	観察、期末考査
			・受動態を含む表現を試してみる	B	観察、期末考査
			・将来のことを話す表現の確認	A	観察、期末考査
			・将来のことについてスピーキング・ライティング	B	小テ、期末考査
			・ミニミニディベート	B	1月パフォテ
	期末考査	1	【考査内容 (予定)】 初見リスニング問題 (EC 評価)、授業で扱った表現・文法確認問題、授業で扱った内容での作文問題、初見の内容で自由英作文問題		

12 1	Lesson 11	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ to 不定詞を含む表現の確認 ・ to 不定詞を含む表現を使ってみる ・ ミニミニディベート 	A B B	観察、学年末考査 観察、学年末考査 1月パフォーテ
	パフォーマンステスト	3	【試験内容 (予定)】ミニミニディベート		
	Lesson 12,13	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不定詞・動名詞の復習 ・ SVO+不定詞、使役動詞、知覚動詞、不定詞の進行形・受動態・完了形の確認 ・ SVO+不定詞、使役動詞、知覚動詞、不定詞の進行形・受動態・完了形を含む表現を使ってみる ・ 趣味・関心について話す表現の確認 ・ 趣味・関心についてスピーキング・ライティング ・ ミニミニディベート 	A A A A B B	観察、学年末考査 観察、学年末考査 観察、学年末考査 観察、学年末考査 小テ、学年末考査 観察
	学年末考査	1	【考査内容 (予定)】初見リスニング問題 (EC 評価)、授業で扱った表現・文法確認問題、授業で扱った内容での作文問題、初見の内容で自由英作文問題		
	復習	3	復習活動		
	調整授業数	1			

計64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ ECと同様にノートを準備する。使えそうな表現をメモしたり、英語を書く練習をしたりします。
 - ・ 必要に応じ提出物を求める場合がある (Cの評価)
 - ・ 小テスト (Cの評価)
 - ・ 定期的な提出課題はないが、授業で終わらなかった作文、プレゼン準備、次回の授業までに準備しておくように指示された学習を行うこと。授業への取り組み状況としての観察の対象とする。
- [以下はECで提出するものだが、LEの評価にも加える]
- ・ スタディーサプリ：自分の選んだレベルで1週間に3レッスン以上 (Cの評価)
 - ・ Abceedへの取り組み (Cの評価)
 - ・ My English Project や振り返りシート：考査返却時等に記入し提出 (Cの評価)

7 担当者からの一言

論理・表現 (LE) は英語を表現すること (話すことと書くこと) を強化するための科目となります。しかし、表現するには、英語をどのように表現するかというルール、つまり文法が重要になります。よって、文法学習も授業ではたくさん扱うこととなります。高校3年間でまとまった英語を話したり、書いたりできるようになるために、文法を意識しながら積極的に表現しようとする姿勢を持って授業に臨んでください。高校2年の終わりごろには、言いたいことのほとんどを言えるようになることを目指しています。新しい表現方法をワクワクしながら自分のものにしてほしいと思います。

(担当：鈴木 渉)